

1990年 10月10日

&lt;毎月10日発行&gt;

第133号 4 頁 200円

定期購読料（送料込み）

半年 1500円、1年3000円

# 赤旗

共産主義者同盟中央機関紙

二面……実録・釜ヶ崎大暴動  
三面……ドイツ統一・中東  
四面……ネオ・マルクス主義批判  
  
東京都下谷郵便局私書箱180号  
(関西) 大阪市港郵便局私書箱40号  
郵便振替 東京 9-352128

発行 赤旗社

自衛隊海外派兵を打ち砕き

## 即位大典 粉砕へ進撃せよ



釜ヶ崎大暴動・五日目(10月6日、21時)

太政の釜ヶ崎で、警察に矛先を向けた歴史的大暴動が起つた。労働者および全市民から駆けつけた青少年達の怒りの爆発は、警官権力を震え上がらせ、奴らを西成署の人民占拠だけは防ぐといつて丸五昼夜追い込み続けたのである。この爆発は、既に末端まで腐敗し切り労働者人民を耐え難く抑圧するだけではなく、今や海外にまで出て行つて日本帝ブルジョアジーの脅威を武力で防衛せんとしている。そして侵略戦争への国家・社会体制づいたのである。

米帝のアラブ侵略軍は、今月中に「計画」の十万人に達する。それ、そぞせしめねばならぬ。この月末には米帝の対イラク総攻撃態勢が整い、日本帝は十二月に召集される臨時国会で、自衛隊海外派兵の「国連平和協力法案」を可決せんとしている。そして侵略戦争への国家・社会体制づいたのである。

九月二十五日には、ソ連帝・外相ジョルジイの脅威を武力で防衛せんとしている。國家権力に対する、全人民的反撃への号砲という意味ある位置を占めることがない。

### 国際主義の旗の下に

米帝のアラブ侵略軍は、今月中に「計画」の十万人に達する。そ

して九月半ば、英帝が、砂漠戦を得意とする機甲旅団三千を、仏帝も陸軍一個旅団四千を投入すると決定した。これで帝国主義側の陸上部隊は、アラブ反動派の派兵部

隊とサウジアラビアも加えて三千万以上

年以内のよろんな形で海上封鎖

されると、短期決戦型武力行使の

可能性の大いに事を喫させた。実

際米帝は、大事を炎天下の砂漠の

中に、展望もなく止まらせておく

ことにより、既に、兵の士気低下

といふ問題、財政赤字の加速度の

膨張の危機、ドルと株の暴落する

危険、石油価格の高騰を製機とし

た世界大不況の兆候という事態に

直面し、追ひ詰められ、早くも開

戦が撤退かの岐路に立たれてい

るのである。だから米帝はグレナダ・

パナマ型の火遊びの説教に駆られ

ているのである。しかし、一旦戦

端を開いたらなれば、「イラク」は

現実とならざるだ。

米帝は、増々世界支配の負担に

あついでおり、だが他の帝国主義

は力の空白を埋める余力がない。

ソ連帝は自國の分解と内乱の危機

に足を取つねじる。英仏帝は一

時代前の覇者でしかない。急速に

経済力を奪へ、潜在的軍事力に

頭を擡げた。しかし、日本帝

は即位大典と名乗るが、

その空虚を露にしている

のである。

### 日帝打倒・米帝一掃ーー天皇制廃絶を目指して

日帝打倒・米帝一掃ーー天皇制廃絶を目指して

天皇制廃絶を目指して





# オーマルクス主張批判

## 山村信二

### 階級宥和求め

#### ジエソップの戦略

ジエソップは、アーラン・ジエソップが国家を階級支配の機構とする傾向を「機能主義」、「階級還元主義」、「断絶する」とがどう、「權力プロック」概念を積極的に受け入れ、資本主義における國家権力が「國家のなかで、そして国家を通じて活動する階級勢力の権力であり、それは支配的階級・分派の構成する「權力プロック」内に力関係ばかりでなく、その

外にある諸勢力の力関係も反映する均衡の産物とする「複合的な社会関係としての国家」論を編制した。これは自らは、「アーラン・ジエソップが批判しようとしたフルシヨア社会学としての「多元統合」なる「現代革命論」や「国家主義主義・民主主義」理論である。アーラン・ジエソップの方法上は批判していよいよ

の同意したものであった。

ジエソップにとって、理論的源泉と

してのマルクスの諸概念師と仰ぐべ

ランクスのアルジヨア国家に対する敵

的性格によって指摘された「革命」の

彼は、「權力プロック」内の敵対的

性格によって指摘された「革命」の

問題に国家を還元するといふ反対し「資

本主義社会におけるヘゲモニーをめぐる

政治的階級闘争の特徴を主張する

マルクス派に依拠して「事実上の政治

格の矛盾と対立に着目し、政治支配

の構造的決定と、「ヘゲモニー」

を混同する傾向ときびきの「断絶」して、

階級支配の構造的決定と、「ヘゲモニー」

を区別された「資本關係の拡大再生

産と兩立しない形態被規定的な階級階

勢力の均衡を成立させていく「ヘゲモニ

ーをめぐる問題」を述べたが、この問題の「戰略的意味」に覆われているに

おもむく問題に焦点を当てるべきだと

する。

それは、非階級的諸力、すなわち労働

者階級と区分され、社会運動諸主体の

「社會主義」に異ならず役割の「機能主

義」、「階級還元主義」、「断絶する」とが

なかつた」と手厳しい批判した。同時に

彼は自らの「戰略理論」アーラン・ジエソップが「機能主義」、「階級還元主義」、「断絶する」とがどう、「權力プロック」概念を積極的に受け入れ、資本主義における國家権力が「國家のなかで、そして国家を通じて活動する階級勢力の権力の権力であり、それは支配的階級・分派の構成する「權力プロック」内に力関係ばかりでなく、その

外にある諸勢力の力関係も反映する均

衡の産物とする「複合的な社会関係としての国家」論を編制した。これは自らは、「アーラン・ジエソップが批判しようとしたフルシヨア社会学としての「多元統合」なる「現代革命論」や「国家主義主義・民主主義」理論である。アーラン・ジエソップの方法上は批判していよいよ

の同意したものであった。

ジエソップにとって、理論的源泉と

してのマルクスの諸概念師と仰ぐべ

ランクスのアルジヨア国家に対する敵

的性格によって指摘された「革命」の

彼は、「權力プロック」内の敵対的

性格によって指摘された「革命」の

問題に国家を還元するといふ反対し「資

本主義社会におけるヘゲモニーをめぐる

政治的階級闘争の特徴を主張する

マルクス派に依拠して「事実上の政治

格の矛盾と対立に着目し、政治支配

の構造的決定と、「ヘゲモニー」

を区別された「資本關係の拡大再生

産と兩立しない形態被規定的な階級階

勢力の均衡を成立させていく「ヘゲモニ

ーをめぐる問題」を述べたが、この問題の「戰略的意味」に覆われているに

おもむく問題に焦点を当てるべきだと

する。

それは、非階級的諸力、すなわち労働

者階級と区分され、社会運動諸主体の

「社會主義」に異ならず役割の「機能主

義」、「階級還元主義」、「断絶する」とが

なかつた」と手厳しい批判した。同時に

彼は自らの「戰略理論」アーラン・ジエソップが「機能主義」、「階級還元主義」、「断絶する」とがどう、「權力プロック」概念を積極的に受け入れ、資本主義における國家権力が「國家のなかで、そして国家を通じて活動する階級勢力の権力の権力であり、それは支配的階級・分派の構成する「權力プロック」内に力関係ばかりでなく、その

外にある諸勢力の力関係も反映する均

衡の産物とする「複合的な社会関係としての国家」論を編制した。これは自らは、「アーラン・ジエソップが批判しようとしたフルシヨア社会学としての「多元統合」なる「現代革命論」や「国家主義主義・民主主義」理論である。アーラン・ジエソップの方法上は批判していよいよ

の同意したものであった。

ジエソップにとって、理論的源泉と

してのマルクスの諸概念師と仰ぐべ

ランクスのアルジヨア国家に対する敵

的性格によって指摘された「革命」の

彼は、「權力プロック」内の敵対的

性格によって指摘された「革命」の

問題に国家を還元するといふ反対し「資

本主義社会におけるヘゲモニーをめぐる

政治的階級闘争の特徴を主張する

マルクス派に依拠して「事実上の政治

格の矛盾と対立に着目し、政治支配

の構造的決定と、「ヘゲモニー」

を区別された「資本關係の拡大再生

産と兩立しない形態被規定的な階級階

勢力の均衡を成立させていく「ヘゲモニ

ーをめぐる問題」を述べたが、この問題の「戰略的意味」に覆われているに

おもむく問題に焦点を当てるべきだと

する。

それは、非階級的諸力、すなわち労働

者階級と区分され、社会運動諸主体の

「社會主義」に異ならず役割の「機能主

義」、「階級還元主義」、「断絶する」とが

なかつた」と手厳しい批判した。同時に

彼は自らの「戰略理論」アーラン・ジエソップが「機能主義」、「階級還元主義」、「断絶する」とがどう、「權力プロック」概念を積極的に受け入れ、資本主義における國家権力が「國家のなかで、そして国家を通じて活動する階級勢力の権力の権力であり、それは支配的階級・分派の構成する「權力プロック」内に力関係ばかりでなく、その

外にある諸勢力の力関係も反映する均

衡の産物とする「複合的な社会関係としての国家」論を編制した。これは自らは、「アーラン・ジエソップが批判しようとしたフルシヨア社会学としての「多元統合」なる「現代革命論」や「国家主義主義・民主主義」理論である。アーラン・ジエソップの方法上は批判していよいよ

の同意したものであった。

ジエソップにとって、理論的源泉と

してのマルクスの諸概念師と仰ぐべ

ランクスのアルジヨア国家に対する敵

的性格によって指摘された「革命」の

彼は、「權力プロック」内の敵対的

性格によって指摘された「革命」の

問題に国家を還元するといふ反対し「資

本主義社会におけるヘゲモニーをめぐる

政治的階級闘争の特徴を主張する

マルクス派に依拠して「事実上の政治

格の矛盾と対立に着目し、政治支配

の構造的決定と、「ヘゲモニー」

を区別された「資本關係の拡大再生

産と兩立しない形態被規定的な階級階

勢力の均衡を成立させていく「ヘゲモニ

ーをめぐる問題」を述べたが、この問題の「戰略的意味」に覆われているに

おもむく問題に焦点を当てるべきだと

する。

それは、非階級的諸力、すなわち労働

者階級と区分され、社会運動諸主体の

「社會主義」に異ならず役割の「機能主

義」、「階級還元主義」、「断絶する」とが

なかつた」と手厳しい批判した。同時に

彼は自らの「戰略理論」アーラン・ジエソップが「機能主義」、「階級還元主義」、「断絶する」とがどう、「權力プロック」概念を積極的に受け入れ、資本主義における國家権力が「國家のなかで、そして国家を通じて活動する階級勢力の権力の権力であり、それは支配的階級・分派の構成する「權力プロック」内に力関係ばかりでなく、その

外にある諸勢力の力関係も反映する均

衡の産物とする「複合的な社会関係としての国家」論を編制した。これは自らは、「アーラン・ジエソップが批判しようとしたフルシヨア社会学としての「多元統合」なる「現代革命論」や「国家主義主義・民主主義」理論である。アーラン・ジエソップの方法上は批判していよいよ

の同意したものであった。

ジエソップにとって、理論的源泉と

してのマルクスの諸概念師と仰ぐべ

ランクスのアルジヨア国家に対する敵

的性格によって指摘された「革命」の

彼は、「權力プロック」内の敵対的

性格によって指摘された「革命」の

問題に国家を還元するといふ反対し「資

本主義社会におけるヘゲモニーをめぐる

政治的階級闘争の特徴を主張する

マルクス派に依拠して「事実上の政治

格の矛盾と対立に着目し、政治支配

の構造的決定と、「ヘゲモニー」

を区別された「資本關係の拡大再生

産と兩立しない形態被規定的な階級階

勢力の均衡を成立させていく「ヘゲモニ

ーをめぐる問題」を述べたが、この問題の「戰略的意味」に覆われているに

おもむく問題に焦点を当てるべきだと

する。

それは、非階級的諸力、すなわち労働

者階級と区分され、社会運動諸主体の

「社會主義」に異ならず役割の「機能主

義」、「階級還元主義」、「断絶する」とが

なかつた」と手厳しい批判した。同時に

彼は